

探究的な見方・考え方の2つの要素

○ 各教科等における見方・考え方

例えば、

・言葉による見方・考え方を働かせること
(対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること)

・数学的な見方・考え方を働かせること
(事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること)

・理科の見方・考え方を働かせること
(自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること)

※ 教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が、総合的に活用されたり、繰り返し活用されたりすることが考えられる。

○ 総合的な学習の時間に固有な見方・考え方

・特定の教科の視点だけでは捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉える。

・実社会・実生活の中の課題の探究を通して、自己の生き方を問い続ける。



例えば、環境問題に関する学習場面において、
どのような探究的な見方・考え方ができるだろうか・・・

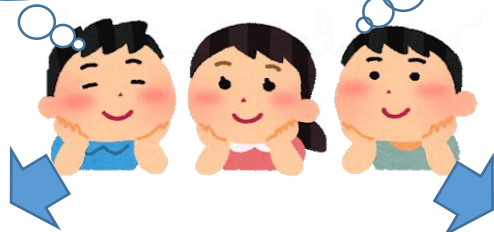
「酸性」は、ものを溶かしていたから、森林にも影響があるのではないかな。
(理科の見方・考え方を働かせて)

探究課題：酸性雨による森林減少を食い止めることはできるのだろうか・・・。

人々が排出する車の排気ガスや工場からの煙が増えたから、枯らしているのではないかな。
(社会の見方・考え方を働かせて)

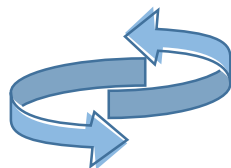
人が住んでいないような所も、森林が減少しているのだろうか。酸性雨の原因は、どんなことが考えられるかな。
(総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせて)

扱う対象や解決しようとする方向性などに応じて、教科等の特質に応じた視点や捉え方を意識的に活用する子供の学びの姿



物事を俯瞰して捉えたり、自己の生き方を問い続けたりする子供の学びの姿

各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的な学習の時間で総合的・統合的に活用



総合的な学習の時間において各教科の見方・考え方を使うことで、各教科等の見方・考え方が成長し、各教科等の「深い学び」を実現

教科等の学習と、横断的・総合的な学習との往還

子供たちが、探究的な見方・考え方を働かせながら、横断的・総合的な学習に取り組むことで、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつながる。